

授業科目名	基礎コンピュータ I		科目コード	181004	授業コード	424102
担当教員	片山 清和		科目ナンバリング	GEFC1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 必修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	現代は情報化社会であり、ネットの利用が前提となっています。このようなネット社会で情報発信を安全に行い、情報受信を行い、情報を適切に活用するために留意しなければならない事があります。この講義では事例を通してどのような事に注意する必要があるかを学びます。またこの講義では情報発信の基盤として、Wordを用いて文章を作成したり、PowerPointを用いてプレゼンテーションの視覚資料を作成したりできるようになるための実習も行います。					
到達目標	① ネット社会で情報を安全に利活用する上での決まりを理解する ② Wordを用いて文章を作成できる ③ PowerPointを用いてプレゼンテーションの視覚資料を作れる					
授業計画	第1講 ガイダンスとクラス分け、タッチタイピング入門、情報モラルチェックと情報セキュリティチェック 第2講 メールによるコミュニケーション 第3講 Word 起動と終了、文字の入力 第4講 文書の入力と編集と保存 第5講 表の挿入と編集 第6講 アイコン、3Dモデルの挿入 第7講 画像・テキストボックスの挿入 第8講 ワードアートとスクリーンショット 第9講 情報モラルと情報セキュリティ 第10講 個人情報の適切な取り扱い、デジタル時代の著作権 第11講 ネット社会に潜む危険と対策 第12講 Webによるコミュニケーション、モバイル機器の活用と管理 第13講 PowerPoint 起動と終了、プレゼンテーションの作成 第14講 PowerPoint オブジェクトの挿入とスライドショー 第15講 タイピングテスト					
テキスト・教材（参考文献含む）	<テキスト> 「情報リテラシー」 (Windows 11, Office 2021対応) FOM出版 2200円 (税込) <参考文献> 「30時間でマスターWord&Excel 2021」 実教出版 1100円 (税込)					
事前・事後学習	<事前学習> 第2講、第9講～第12講の前では授業で予定している部分のテキストを読んで問題を解いたり、理由などを調べたりする。第3講～第8講、第13講～第14講の前ではテキストや配布資料を読んで実習内容を理解する。(30分) <事後学習> 課題を完成させる。(150分)					
成績評価方法	実習の提出物(70%)とタイピングテスト(30%)の合計で評価します。定期試験は行いません。					
授業内の課題・提出方法	<課題> 作成したファイルをMoodleで提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> Moodleを通して個別にコメントします。					
担当者から一言	コンピュータ教室での実習では積み重ねで進めるので、欠席すると次の実習が困難になります。WordやPowerPointで技能を身に付けるために、課題をやや多くしているので授業時間内では完成しません。授業外で時間を作って課題をしっかりと行ってください。					

授業科目名	基礎コンピュータⅡ		科目コード	181005	授業コード	424502
担当教員	片山 清和		科目ナンバリング	GEFC1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 必修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	文書作成、表・グラフ作成、データ分析、プレゼンテーションを行うことは、在学中だけでなく社会に出てからもよくあります。この講義では、文書作成ツール、表計算ツール、プレゼンテーション作成ツールとしてWord、Excel、PowerPointの実習を行います。実習は、与えられたデータを編集・加工することで課題を完成させるもので、主体的に学び、わからないところを教員に聞いて解決する形でいきます。					
到達目標	① Wordを用いてレポートや論文を作成できる ② Excelを用いて表やグラフを作成できる ③ Excelを用いてデータ分析のためにデータ抽出やクロス集計ができる ④ PowerPointを用いて効果的な視覚資料を作れ、プレゼンテーションの準備ができる					
授業計画	第1講 ガイダンス、Word (1) 第2講 Word (2) 第3講 Word (3) 第4講 Word演習問題 (1) 第5講 Excel (1) 第6講 Excel (2) 第7講 Excel (3) 第8講 Excel (4) 第9講 Excel (5) 第10講 Excel (6) 第11講 Excel 演習問題 第12講 PowerPoint (1) 第13講 PowerPoint (2) 第14講 PowerPoint (3) 第15講 PowerPoint 演習問題					
テキスト・教材 (参考文献含む)	<テキスト> 「情報リテラシー」 (Windows 11, Office 2021対応) FOM出版 2200円 (税込) <参考文献> 「30時間でマスターWord&Excel 2021」 実教出版 1100円 (税込)					
事前・事後学習	<事前学習> テキストを読んで実習内容を理解する。(30分) <事後学習> 課題を完成させる。(150分)					
成績評価方法	実習の提出物 (70%) とタイピングテスト (30%) の合計で評価します。定期試験行いません。					
授業内の課題・提出方法	<課題> 作成したファイルをMoodleで提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> Moodleを通して個別にコメントします。					
担当者から一言	コンピュータ教室での実習では積み重ねで進めるので、欠席すると次の実習が困難になります。WordやPowerPointで技能を身に付けるために、課題をやや多くしているので授業時間内では完成しません。授業外で時間を作って課題をしっかり行ってください。					

授業科目名	データサイエンス概論		科目コード	181406	授業コード	421602	
担当教員	前川 督雄、片山 清和		科目ナンバリング	GELN1006			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	情報通信技術の革命的発展にともない、私たちの住む社会はサイバー社会（ネット）とフィジカル社会（現実社会）とが一体化した新しい社会に生まれ変わろうとしています。その社会では、気づかないところで観測・集積される多様なデータを用いてAIが社会の重要な基盤として活躍します。 これからの私たちは、データサイエンスとAIについてのリテラシーをもつことが求められるようになります。 「データサイエンス概論」ではその入門編として基礎的な知識を学び、心構えの基本を身に付けてもらいます。						
到達目標	データサイエンスとAIについて基礎的な知識を獲得し、心構えの基本を身に着ける。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 社会で起きている変化① Society5.0（前川） 第3講 社会で起きている変化② AI（前川） 第4講 社会で起きている変化③ データ駆動型社会（前川） 第5講 社会で活用されているデータ（片山） 第6講 データ・AI利活用の最新動向（前川） 第7講 データ・AIの活用領域（片山） 第8講 データ・AIの利活用のための技術（片山） 第9講 データ・AI利活用の現場（片山） 第10講 データを読む・説明する・扱う（導入）（片山） 第11講 データを読む・説明する・扱う（演習）（片山） 第12講 データ・AI利活用における留意事項①（前川） 第13講 データ・AI利活用における留意事項②（前川） 第14講 データを守るうえでの留意事項（前川） 第15講 まとめ 定期試験 （必要に応じて内容・順序を変更することがあります）						
テキスト・教材（参考文献含む）	岡嶋ほか「はじめてのAIリテラシー」技術評論社 税別1680円 参考文献 江間「絵と図でわかる AIと社会」技術評論社 税別2000円						
事前・事後学習	授業前にテキストの該当する箇所を予習すること（60分）。授業後に復習するとともに、参考図書やインターネットを用いて疑問点を調べ、授業内容を展開する探索を行うこと（120分）。						
成績評価方法	毎回の授業で課す確認テスト及び演習課題60%、定期試験40%で総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	授業内で実習課題や復習課題を課し、原則として教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の課題等について、事後（次回など）に解説を行います。						
担当者から一言	本科目は、四日市大学のデータサイエンス・リテラシー（DSL）プログラムの中核科目です。 四日市大学DSLプログラムは、文部科学省から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度リテラシーレベル」を認定されました（三重県で初めて）。						